泊まってわかる！北の湯之国・登別温泉

2012年まつり・イベント

鬼火の路、幻想と神秘の谷

期間　2012年5月1日(火)～11月30日(金)
フットライト点灯時間　日没～
会場　地獄谷入口・地獄谷展望台・地獄谷遊歩道

地獄の谷の鬼花火

期間　2012年6月1日(金)～8月10日(金)の毎週木曜・金曜
6月1日はオープニング特別開催
時間　午後8時30分
会場　地獄谷展望台付近
※悪天候等、中止の場合あり

第49回登別地獄まつり

期間　2012年8月25日(土)26日(日)の2日間
会場　登別温泉極楽通り

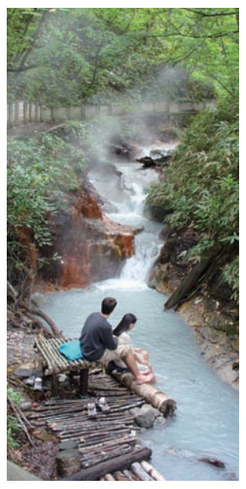
第42回登別温泉湯まつり

期間　2013年2月3日(日)4日(月)の2日間
会場　登別温泉泉源公園

登別温泉宿泊施設

	市外局番(0143)
第一滝本館	☎84−3322
ホテルまほろば	☎84−2211
登別石水亭	☎84−2255
祝いの宿登別グランドホテル	☎84−2101
登別万世閣	☎84−3500
望楼NOGUCHI登別	☎84−3939
名湯の宿パークホテル雅亭	☎84−2335
ホテルゆもと登別	☎84−2277
旅亭花ゆら	☎84−2322
御やど清水屋	☎84−2145
登別温泉郷滝乃家	☎84−2222
滝本イン	☎84−2205
玉乃湯	☎84−3333
花鐘亭はなや	☎84−2521

登別温泉の歴史



松浦武四郎が登別温泉に初めて足跡をしるしたのは、弘化2（1845）年のことでした。それから15年後の万延元（1860）年には、箱館奉行所において、南部藩箱館留守居役であった上山半右衛門が、11種から成る書類をわたされています。そのうちのひとつであった演説書の中に、「前略―登別山中に温泉があるので、去る安政5（1858）年新道を開き、止宿所を建てた。旅人ならびに蝦夷人たちが自由に湯治をしている」と、温泉の所在と役割が特筆されているのを目にしています。この止宿所は柾葺板羽目造り、広さ十坪ほどのものだったようで、これをきっかけに、利用者への気配りが整い、湯治場と呼ばれるようになっていったのです。

その後、明治38（1905）年に日露戦争傷病兵の保養地に指定されてから、登別の名は「名湯」として全国に広がり、各地から数多くの湯治客が訪れるようになります。

さらに大正4（1915）年には、現在のJR登別駅から温泉までの8キロの区間に軌道馬車の鉄道を敷設されたのを皮切りに、3年後には蒸気機関車が、10年後には発電所が建設され電車が走るにまで至ります。こうして着々と今日の登別温泉街の基盤ができあがり、歩みを合わせるように次々と旅館やみやげ店が立ち並びはじめました。

時代と共に町並みや施設はその姿を変えてはいるものの、豊富な湯量と豊かな泉質は150年の時を経ても変わることはありません。古より伝説の湯と語り継がれてきた頃のまま、現在も、訪れる人々の心と身体を癒し続けているのです。

極楽通り

温泉街を浴衣姿で歩くのは、温泉旅行の大きな楽しみのひとつです。登別温泉街のメインストリートは「極楽通り」の愛称で親しまれており、通りに面して商店やみやげ店、飲食店が軒を並べています。

みやげ店には登別温泉でなければ買えない名物や名産品が数多く取り揃えられております。お店をのぞいて歩くだけで楽しく、掘り出し物や思いがけない品が見つかるかもしれません。飲食店も多く、ラーメン店や、そば、居酒屋やレストランなどいろいろな店があり、夜はスナックやバーが観光客で賑わっています。

通りにはエンマ堂があり、からくりによるエンマ大王の地獄の審判が見られます。湯をかけて願をかける湯かけ鬼蔵や小さな鬼のモニュメントも点在しています。湯上がりのあとは、極楽気分で温泉街を散策して下さい。

泉源公園

地獄谷から流れる温泉の川沿いから噴き出す、間欠泉を活用した公園。約3時間位の間隔で迫力ある音・湯気とともに、勢いよく噴き出す間欠泉を体感することができます。

登別伊達時代村

江戸時代の街並を時代考証に基づき忠実に再現。94棟の木造建築物が立ち並び、忍者達の大死闘をハイビジョンで楽しめる大忍者映像館や、妖怪が勢揃いする妖怪びっくり小屋、お大尽遊びを再現した日本伝統文化劇場などアトラクションが一杯です。

登別マリンパークニクス

北欧のロマンチックな街並を再現。最大の見所は海洋美術館ニクス城で、内部が水族館になっており、頭上をサケやサメなどの魚群が回遊し、幻想的な海の世界が広がります。イルカやアシカのショーや、ペンギンのパレードも大人気です。

のぼりべつクマ牧場

登別温泉からロープウェイで登った山頂にあります。現在は100頭以上のエゾヒグマを飼育しており、第一牧場と第二牧場からなり、雄・雌別々に集団で生活しています。また、世界でもめずらしいヒグマ博物館やアイヌ民族の生活様式を再現したユーカラの里などもあります。

社団法人
059-0551
登別観光協会
北海道登別市登別温泉町60番地
TEL（0143）84-3311
http://noboribetsu-spa.jp/

下呂温泉のおすすめグルメ&スイーツ

G-ランチ&G-グルメ
下呂温泉街食べ歩き

下呂市は、良質な水と空気、土など豊かな自然環境に恵まれた地域。農作物や家畜、清流魚などまさに地産地消食材の宝庫となっている。そんな下呂温泉の飲食店では、地元の食材や郷土料理をアレンジしたオリジナルの料理を提供するGランチ&Gグルメが人気。さらに下呂ならではのスイーツもGスイーツとしてスタートしている。温泉街ののぼり旗が目印。観光案内所や参加店舗には、料理と取扱い店舗、案内マップの入ったパンフレットも設置されている。全国ブランドの飛騨牛を筆頭に、天然鮎、トマトを観光や温泉巡りの途中の昼食や夜食として気軽に楽しめる。Gスイーツは、地元産の栃の実やリンゴ、牛乳、たまごを使用。工場直売の手ごろなものから、レストランでいただく高級なデザートまで幅は広い。食べ歩きやお土産としても人気。

四季に合わせて、旬なフルーツを使用したスイーツが登場するのも魅力

飛騨美濃けんとんカツレツバーガー
飛騨牛ハンバーガー

ビューティ&リフレッシュとGナイト誕生!!

Gナイトとは…
旅館でのお食事の後など、気の合う者同士でお酒を酌み交わすのも温泉街の楽しみ！夜のお店選びに活用を。

Beauty & Refresh
Gビューティ&リフレッシュとは、下呂市内で営業されている美容・エステ・マッサージ・鍼灸・接骨院など、美容と健康に関するお店を紹介。

下呂温泉のグルメ・観光・宿泊・特産品などいろんな情報盛り沢山！
下呂温泉ぐるっと案内「げろぐる」
パソコンはこちらから
げろぐる　検索
http://www.gerogle.jp

ケータイはこちらから
右のQRコードを携帯電話のバーコードリーダーで読み込み。
直接入力の場合は
http://www.gerogle.jp./m/
迷惑メールを設定されている場合は、「gerogle.jp」からのメールが受信できるように設定の変更を。

旅行のプロ必携

下呂市観光協会連絡協議会では、下呂温泉観光ナビ「観光素材シート2012年夏・秋編」を発行している。旅行のプロ必携の一冊で、下呂温泉の基本情報から、夏、秋の観光トピックスを掲載。旅行商品造成やセールス用の資料作成に役立つ。希望者は観光協会まで。

下呂温泉の花火

★下呂温泉まつり　8月1日～3日
3日のフィナーレでは、下呂温泉花火ミュージカル夏公演が開催
★下呂温泉花火ミュージカル冬公演　12月1、8、15、22、24日の各土曜日
冬の澄み切った夜空に、音楽に併せて華麗に花火が舞い踊る
★冬の下呂温泉花火物語　1月5日～3月30日までの毎土曜日(計13回)
新春、節分、バレンタイン、合格祈願など、毎週テーマに併せた演出あり(音楽なし)
※予告なく変更中止となる場合がある。

お問い合わせ先
（社）下呂温泉観光協会
TEL.0576-24-1000
下呂市総合観光案内所　TEL.0576-25-4711
下呂温泉旅館案内所　TEL.0576-25-2541
URL http://www.gero-spa.com

新人舞妓がデビュー

下呂温泉に、2人の新人舞妓（まいこ）がデビューした。下呂温泉で舞妓が誕生するのは、52年ぶりとなる。「雛乃（ひなの）」さんと「菊乃（きくの）」さんは、幼なじみで今春地元の高校を卒業したばかり。

今後は下呂温泉の旅館ホテルのお座敷や下呂温泉でのイベントに登場する予定。

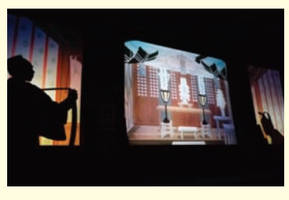
舞妓さんをお座敷に呼ぶ際には、旅館ホテルへ問い合わせを。

桜と紅葉の里「歳時記の森」

下呂温泉合掌村の山側が桜とモミジの里山に生まれ変わり、夏の新緑、秋には紅葉、冬の雪景色、春は桜を楽しめるようになる。

歳時記の森には、下呂地方独特の造りである益田造りの古民家「萬古庵」もあり、下呂の里山の四季折々の自然や文化を楽しみながら、和風の茶屋で下呂の味も楽しめる。

新感覚の影絵劇場 影絵昔話館「しらさぎ座」

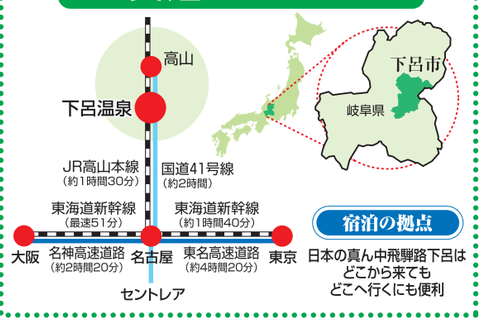


下呂温泉合掌村の、しらさぎ座は合掌造りの芝居小屋。下呂市や下呂温泉の伝説や昔話を上演。CGや音響にもこだわった本格的で新感覚な影絵劇を楽しむことができる、「全国初」の常設の影絵劇場。今年の公演題目は、下呂に伝わる「力持ち小太郎」と「しらさぎ伝説」と手影絵ショー。7月14日からは「祖師野丸」と「しらさぎ伝説」と手影絵ショー。影絵劇は「劇団かかし座」が演じる。同劇団は、日本で最初の現代影絵専門劇団（1952年創立）。

1日3回公演で公演時間は約35分。1回目は午前10時30分からで、2回目は、正午から「しらさぎ伝説」と手影絵ショー。3回目は午後2時からで1回目と同じ題目。

平成24年前期公演／2月18日～6月10日　後期公演／7月14日～12月2日
休演日／毎週水曜日（ただし、祝祭日及び8月の水曜日は公演）
観劇料／大人・小人（3歳以上）とも　1人300円（合掌村入場者特別料金）
下呂温泉合掌村は年中無休。

交通アクセス



宿泊の拠点
日本の真ん中飛騨路下呂はどこから来てもどこへ行くにも便利

日本三名泉 飛騨路 下呂温泉

下呂温泉は、草津温泉、有馬温泉と並んで「日本三名泉」に数えられる日本を代表する温泉地のひとつ。温泉街は60軒ほどのホテル、旅館などからなり、年間100万人の宿泊客がある。温泉の由来は、一千年の昔、薬師如来が傷ついた一羽の白鷺に姿を変え、飛騨川で傷を癒し、源泉のありかを村人に知らせたと伝えられている。江戸時代の儒学者林羅山が、下呂温泉を有馬、草津とともに「天下の三名泉」と紹介したことで、現在、日本三名泉、と呼ばれており、平成8年の旅フェア会場で正式に調印式も行われている。

下呂温泉の泉温は最高84度の高温で湧く温泉。泉質はアルカリ性単純温泉。無色透明でまろやかなお湯で、肌がすべすべになる。

下呂温泉は交通至便。JRでもバスでも自動車でも。

下呂に泊まって、白川郷、北陸方面、馬籠・妻籠や日本ライン下りなど観光ルートの選択肢は多彩だ。

無料の足湯

温泉街には、8か所の無料の足湯が点在、散策の途中に気軽に温泉を楽しめる

湯めぐり手形

1枚の手形で、加盟旅館3軒に入浴できる。（6カ月有効:料金1,200円）
※旅館によって入浴時間が異なる、都合で入浴できない場合もある。

日本のストーンヘンジ「金山巨石群」

下呂市の金山地区には、「金山巨石群」として注目の観光スポットがある。「金山巨石群」は、「岩屋岩陰遺跡」として岐阜県史跡文化財として指定されている遺跡。

一緒に縄文土器が発掘されていることから、縄文時代に人が住んでいたのではといわれている。

イギリスのストーンヘンジを彷彿させる巨石群が並んでおり、春分の日、秋分の日、夏至、冬至など、特定日に岩のすき間から太陽の光が射し込む。ガイドも依頼できる。

所在地：岐阜県下呂市金山町岩瀬　岩屋ダムから徒歩15分。

小坂の滝めぐり

下呂市小坂町は、落差5メートル以上の滝が200箇所余りある日本一滝の多い町。ガイドの案内で、そのすばらしさを体験できる滝めぐりツアーが、トレッキング初心者から上級者までの13のコースで設定されている。所要時間は約2時間から8時間。小坂の滝は、岐阜県の岐阜の宝もの認定第1号でもある。

昔の技と英知を体験できる博物館
下呂ふるさと歴史記念館

縄文体験
コース①　古代アクセサリー製作
体験料250円　製作時間60分
コース②　縄文土製品製作
体験料300円　製作時間60分
コース③　ミニチュア縄文土器製作
体験料500円　製作時間90分
●団体OK20名様　●親子OK一緒に楽しめる

※コース②・コース③は家庭のオーブンレンジで焼成が可能。
※当館でオーブン焼成をご希望の方は、焼成前の乾燥に1日要す。
※体験受付時間は、開館日の9時30分～11時00分、13時00分～15時30分。

下呂ふるさと歴史記念館
GERO CITY MUSEUM
〒509-2202
岐阜県下呂市森1808番地37 TEL（0576）25-4174
■ご利用のご案内
開館時間／9:00～17:00（最終入場16:30）
休館日／月曜日（祝日、振替休日にあたる場合は翌日）、年末年始

温泉でコンベンション～下呂交流会館アクティブ

芸術、文化、スポーツの拠点として、下呂市に下呂交流会館「アクティブ」がオープンした。本格的なアリーナとコンサートホールの複合施設で、オープン以来さまざまなコンサートやスポーツ大会、トークショー、寄席などが開催されている。

注目は3000人規模のコンベンションが開催可能なこと。

市内は下呂温泉をはじめ1万人の宿泊能力を有しているので、本格的なMICE（ミーティング・インセンティブ・コンベンション・イベント）の受け入れが可能となった。

また、コンベンションを開催する場合は、下呂市コンベンションビューローのコンベンション助成金制度を利用できる。コンベンションとは、大会、会議、学会、研究会、研修、合宿など（但し、営利目的の興行、政治団体、宗教団体などに関係しないもの）。

対象となるコンベンションは、主たる会場が下呂市内の会議施設等であり、2時間以上のコンベンションが開催されること、下呂市内での宿泊を伴うこと（コンベンション参加による宿泊で、宿泊施設を利用）コンベンション開催前に助成金支給の申請をすることーの3つの条件が必要。

（宿泊人数について）

コンベンション参加者宿泊人数は、コンベンション1開催期間の単日ごとの宿泊について区分。連泊を伴うコンベンションで、単日ごとの宿泊人数が表中のコンベンション参加者宿泊人数に達しない場合は、開催コンベンション期間の総宿泊人数（延べ宿泊人数）によって区分する。

ただし、助成金の上限は、1開催あたり120万円とする。

コンベンション参加者宿泊数（単日あたり）	助成金額
30人～49人	30,000円
50人～99人	70,000円
100人～199人	140,000円
200人～299人	210,000円
300人～399人	240,000円
400人～	280,000円

※平成24年度の助成金申請の締切は、平成24年12月末まで。その他、詳細については同ビューローに要問い合わせ。

■問い合わせ先　下呂市コンベンションビューロー事務局　0576−23−0070